

令和5年度学校評価報告書

令和6年3月

北海道函館中部高等学校長

次のとおり令和5年度の学校評価(定時制課程)について報告します。

1 本年度の具体的な重点目標

- (1) 基礎的・基本的な学習内容を身に付けさせるとともに、授業規律の確立を図る。
- (2) 学習内容の到達目標を明確にし、生徒が主体的に学習に取り組む指導を行うとともに、一人一台端末を活用した授業研究を進める。
- (3) ユニバーサルデザインを意識した授業づくりと観点別評価をはじめ、生徒一人ひとりの実態を踏まえた多様な学習評価の研究を計画的に進める。
- (4) 生徒指導提要进行を踏まえた組織的・体系的な生徒指導体制を確立するとともに、生徒一人ひとりの個性を見極め、教員と生徒との心のふれあいに基づいた生徒指導に努める。
- (5) 将来の自立に向けて、基本的な生活習慣を確立する指導に努めるとともに、SNS等による誹謗中傷や犯罪防止に向けた啓発活動に取り組む。
- (6) 生徒会活動を通して、協力して諸課題を解決しようとする自主的・実践的態度を育てる。
- (7) 成人年齢の引き下げに伴い想定される諸課題について、継続して生徒への啓発に努める。
- (8) 外部の関係機関等と密に連携を図り、進路指導員や外部講師を積極的に活用し、望ましい勤労観や職業観を育成する。
- (9) 生徒一人一人の能力や適性に基づいた計画的な進路指導を行う。
- (10) 自らの健康について考え、健康の維持や増進に努める態度を育成する。
- (11) 家庭や地域と連携した安全教育に努める。特に交通安全に重点を置き、交通事故の未然防止に努める。
- (12) 生徒一人一人の特性を把握し、共通理解のもと、特別な支援を必要とする生徒に対する指導の充実を図る。
- (13) 安全・防災教育の充実を図り、緊急時の対応力を高める。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・丁寧な学び直しの授業の実践により、中学校時に不登校傾向だった生徒が、前向きに授業に臨むようになっていく。 ・生徒による授業評価を通して生徒のニーズや実態を把握し、生徒中心の授業ができた。	・生徒の実態に応じて、一人一人に寄り添った指導をお願いしたい。 ・生徒が学ぶ意欲を高めるような授業法や評価法の改善について更に取り組んでほしい。
改善方策	(1) 一人一人の特性を理解した分かる授業を目指した授業改善に取り組む。 (2) ICTを活用した授業に向けて校内研修を実施し、スキルアップを図る。	
生徒指導	・日常的に保護者との連携を密にすることで、保護者と教員の共通理解が図られ、生徒の指導に大きな成果をもたらした。 ・生徒会活動や部活動を充実することで、生き生きと学校生活を送る生徒が増えた。	・中学校時に不登校だった生徒たちが安心して登校できる環境づくりを継続してお願いしたい。 ・地域住民との連携や交流が図られる取組があると良い。
改善方策	(1) 保護者や関係機関との連携を密にして、地域の教育力を活用した教育活動を実践する。	
進路指導	・早期の進路指導の取組により、4年制大学や医療系の専門学校に進学するなど、進路実現に関して大きな成果を表れた。 ・教育局のアドバイザーなどの関係機関の支援により、勤労観や職業観を育む指導ができた。	・生徒の適性や希望に応じたきめ細かな進路指導を継続してお願いしたい。 ・進学や就職に関する情報を早期に生徒へ提供するなどして、進路意識を高めることが大切である。
改善方策	(1) 生徒の適性や進路希望に応じて、早期から組織的に進路指導に取り組む。 (2) 様々な課題を抱えている生徒に対する進路指導に関して、関係機関と連携して指導していく。	
健康・安全指導	・さまざまな悩みを抱えている生徒に対する組織的な教育相談体制の構築により、不登校生徒や退学生徒が昨年よりも減少した。 ・定期的な避難訓練の実施により、災害時の対応について意識が高まった。	・中学校時の不登校生徒に対する入学後の丁寧な指導により、不登校や退学者の減少に繋がっているため、更に継続した指導をお願いする。 ・町内会と連携した避難訓練などを行うことで実際に即した防災教育ができる。
改善方策	(1) 学校医やSCなどの助言等をもとに、さらに教育相談体制を充実させていく。	
公表方法	(1) 学校HPに掲載 (2) 学校評議員会で報告 (3) PTA総会で報告	

